



旧美野分教場（塩田町）

第2章

嬉野市の文化の 現状と課題

1 嬉野市の文化の土壌

地域の文化芸術はそれぞれの土地特有の自然環境や歴史の中で育まれてきたものであり、地域の文化振興を図るにはまずその土地の特性を知ることが基盤となります。

本市は、肥前小富士の別名を有する唐泉山など特色ある山々、市の中心部を流れる有明海に注ぐ塩田川、8世紀頃に書かれた肥前風土記にも記されるほどの歴史ある嬉野温泉といった恵まれた自然資源に囲まれています。また、国指定では天然記念物の大チャノキや重要伝統的建造物群保存地区の塩田津、重要文化財の西岡家住宅、永寿寺の不動明王・二童子像、史跡の不動山窯跡など、その他にも県及び市指定の多くの文化遺産があります。これらの文化財やまちに伝わる伝統芸能などは先人たちが私たちに伝え残してくれた大切な資産として、後世へ保存継承していく必要があります。

このような豊かな自然、町並みなどふるさとの歴史や文化のすばらしさ、また、お茶や焼き物などの特産品を対外的に発信していくことはもちろんですが、市民自らがその良さを再認識することで、豊かな文化資源を活用したまちづくりにつなげることが期待されます。

本市では伝統芸能や文化財の保護を目的とした活動をはじめ、市民の手によるさまざまな文化活動が盛んとなっています。また、「リバティ」を活用した活動も広がってきており、市民の文化振興に対する関心は高まってきています。

平成26年3月には『嬉野市総合計画（後期基本計画）』を策定し、この中で、文化振興に関しては市民が文化芸術への興味をさらに深め、心の潤いのある生活を送ることができるよう、文化活動の活発化を図ることとしております。

このため、「豊かな自然、伝統、文化を守り、人を育てるまち」の実現を目指し、活動拠点である文化施設を最大限活用した本格的な市民芸術活動の実施、市民だけでなく観光客も対象とした文化芸術イベントの開催、地域資源を活用した特色ある文化芸術活動の支援など、嬉野市の新しいまちづくりを牽引していくべき戦略的プロジェクトを掲げています。

2

文化振興にあたっての現状と課題

課題1 市民の文化活動の活性化に向けた環境整備が必要である

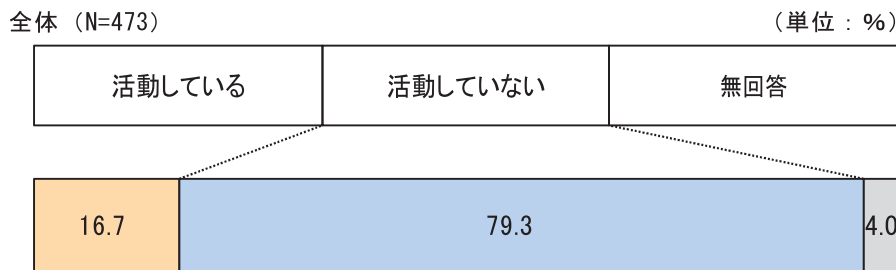
市民アンケートの結果によると、本市で日頃継続的な文化・芸術活動を行っている人の割合は全体の1割台の16.7%と決して高くはありません。市内文化団体では会員の高齢化などにより、文化祭などへの参加機会、出品作品も減少しており、今後人材不足が心配されます。

市民が行う文化活動の促進については、広く市民に関連情報が行き届いていないことも課題としてあげられます。市民に対する積極的な働きかけや文化活動に気軽に参加できるきっかけづくりも重要です。

市内におけるさまざまなジャンルの文化活動を活性化するためには、活動場所として利用されている公共施設等をより利用しやすくする仕組みづくりや、地域コミュニティ・文化団体同士など関係者が協力し合うための体制づくりが重要となります。

●一般市民アンケートより

「日頃、継続的な文化・芸術活動を行っていますか」



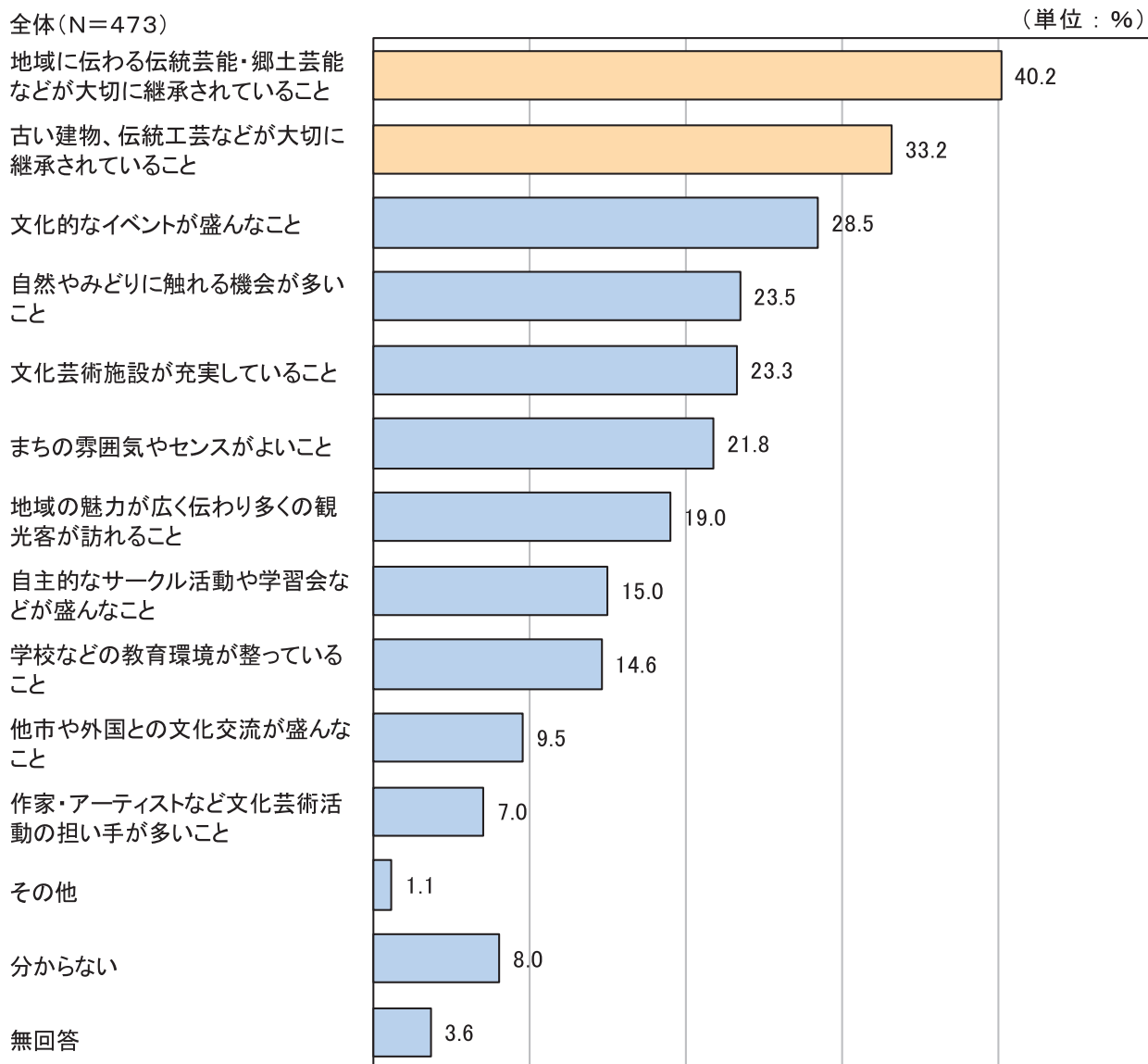
課題2 嬉野市独自の文化の保存・継承に向けて、担い手となる人材不足が懸念される

市民アンケートでは、「文化的な環境」という言葉の持つイメージとして、「地域に伝わる伝統芸能・郷土芸能などが大切に継承されていること」と、「古い建物、伝統工芸などが大切に継承されていること」を多くの方があげています。その一方で、一部を除いて市内歴史的な文化財の認知度が低い傾向にあり、啓発活動により文化財への理解を深めてもらうことや、市内外に向けての情報発信が課題となっています。

少子高齢化による伝統芸能などの継承者不足も懸念されています。伝統芸能の担い手の育成は技術の継承に時間を要し、学ぶ側と教える側双方の情熱が不可欠であることから、子どもや若者が文化財について学んだり伝統芸能にふれる機会の充実と、関係機関の協力及び継続的な支援が必要です。

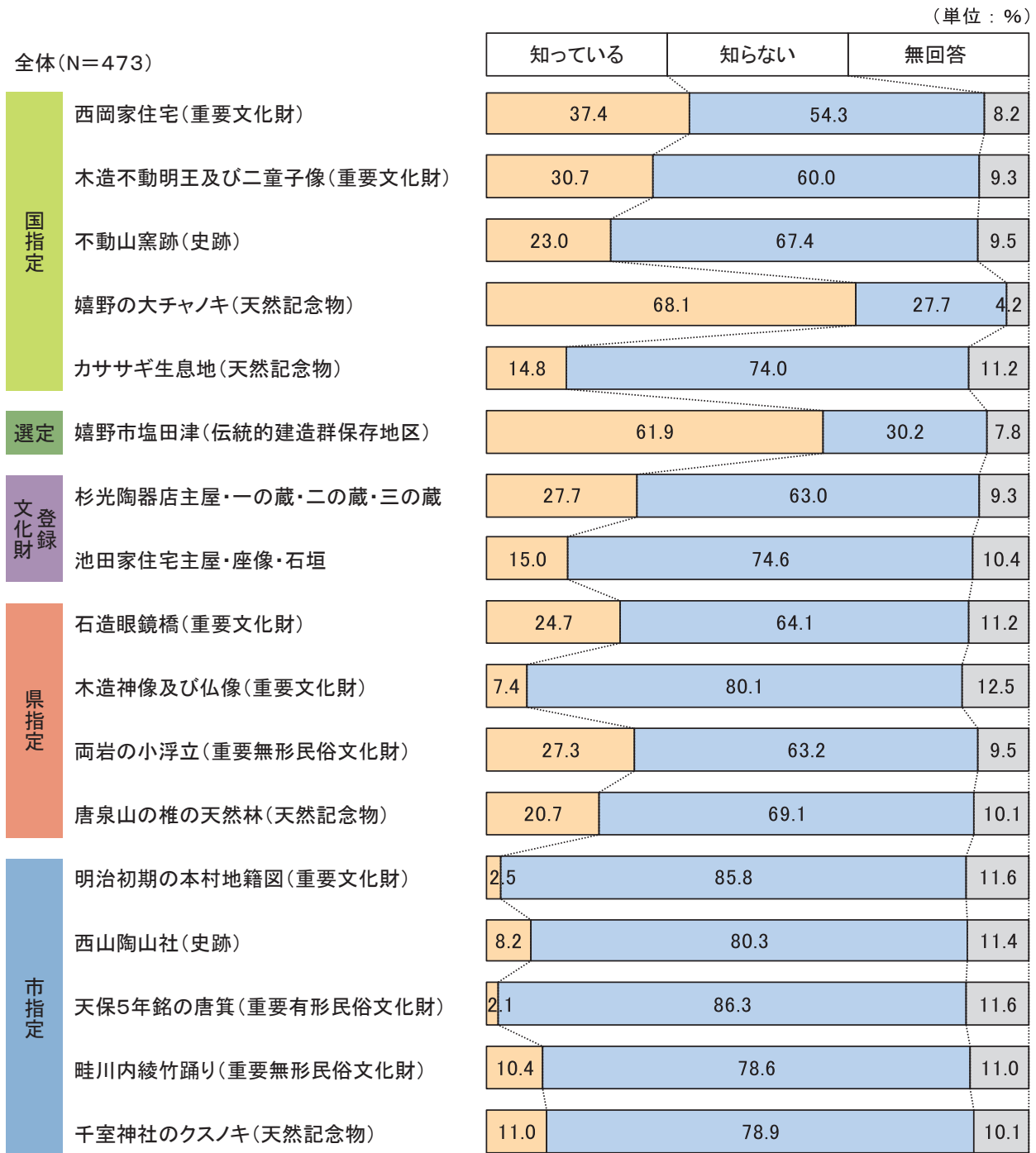
●一般市民アンケートより

「『文化的な環境』という言葉に対してどのようなイメージを持っていますか」



●一般市民アンケートより

「市内にある次の文化財を知っていますか」



課題3 子どもたちが豊かな文化創造活動ができるような連携や働きかけが必要である

小中学生へのアンケートでは、嬉野市が「文化が盛んなまち」になるために、特に大切だと思うことは、「歴史のある古い建物や町並みを保存してきれいにすること」という意見が最も多くなっています。また、「市民が中心になって観光客や外国人と交流するイベントを行うこと」が2番目に多くなりました。

しかしながら、一般市民と同様、小中学生の地元の文化財への認知度も低く、地域の良さが子どもたちに十分に伝わっていないことから、本市ならではの文化資源を活用し学校・家庭・地域が一体となった「ふるさと教育」に取り組むことが重要です。

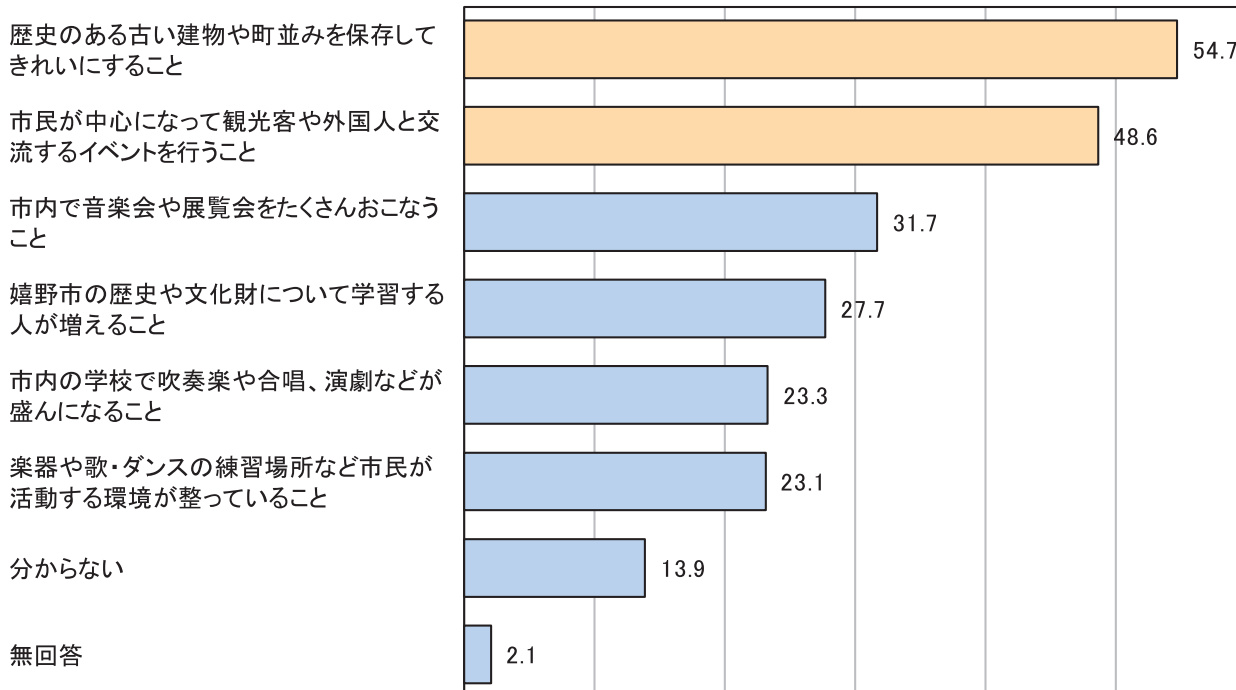
また、本市の文化資源を活かした市民が中心となった交流イベントの開催など、自分たちも楽しく誇りに思えるまちづくりに向けて、親と子、地域の人たちが一緒になって活動していくことが求められます。

●小中学生アンケートより

「嬉野市が『文化が盛んなまち』になるために、特に大切だと思うこと」

全体（N=1,246）

（単位：％）

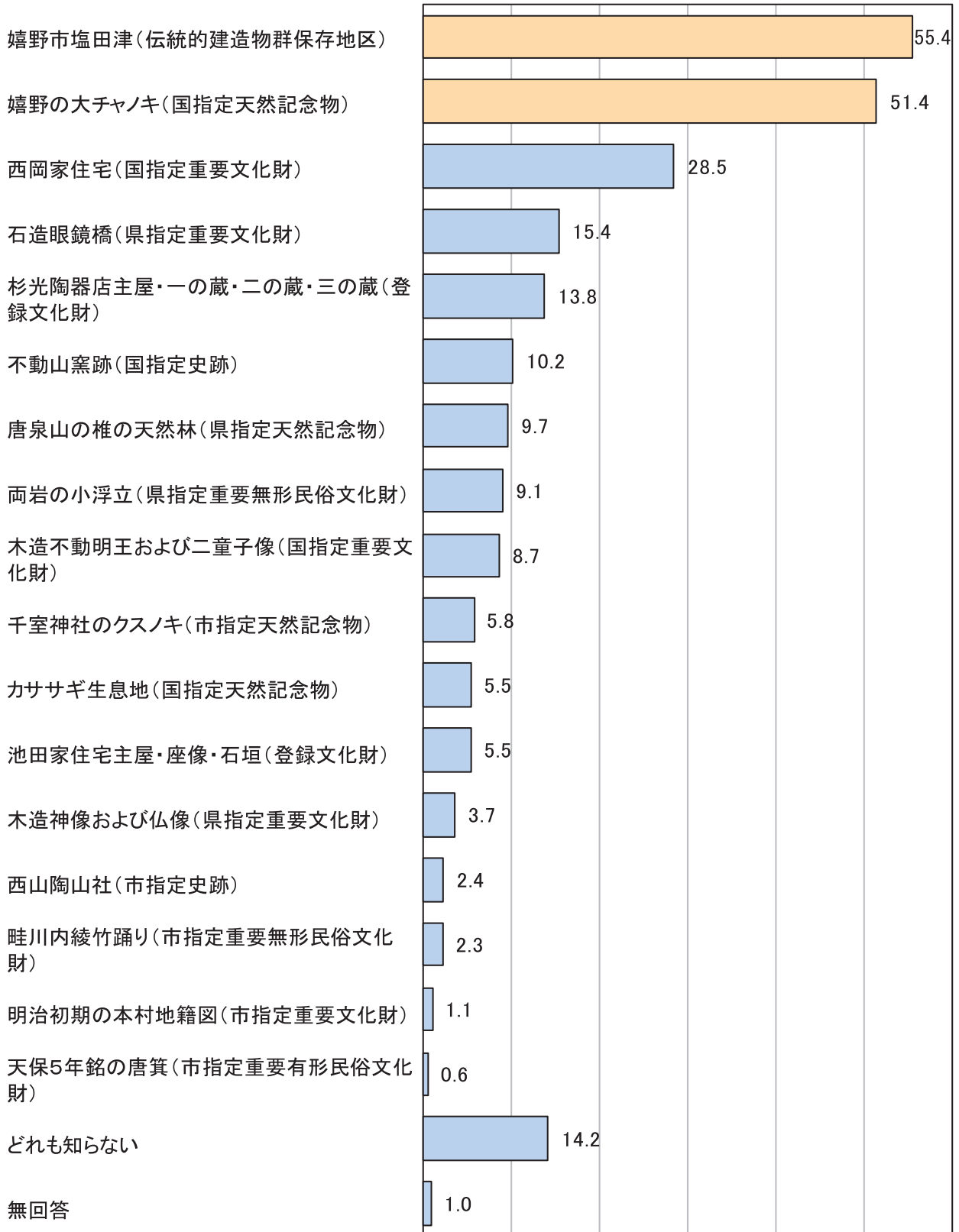


●小中学生アンケートより

「市内の文化財を知っていますか」

全体 (N=1,246)

(単位：%)



課題4 市民が文化芸術にふれる機会が十分とはいえない

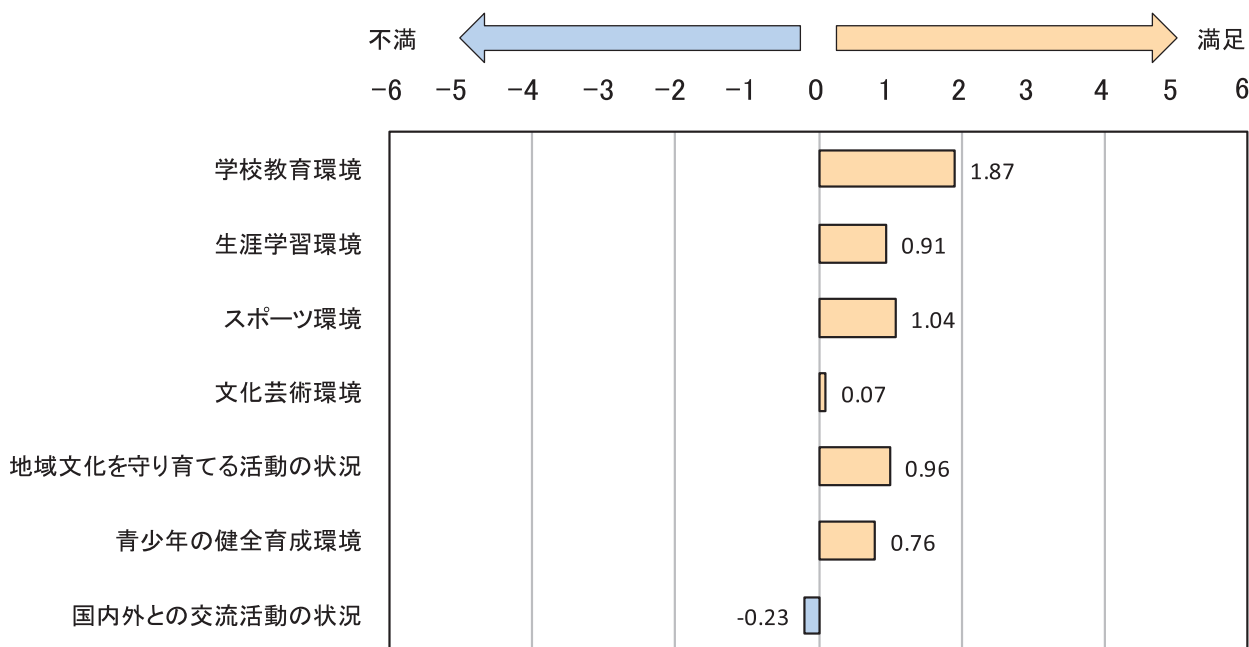
まちの現状についての満足度に関する市民アンケートでは、教育・文化の分野において、文化芸術環境に対する満足度はスポーツ環境や生涯学習環境などと比べて低くなっています。

また、今後参加したいと思う文化・芸術活動については、「一流の文化・芸術公演の鑑賞」という意見が最も多くなっていますが、全体では文化活動への参加意向がない市民も多く、文化芸術にふれる機会や場が少ないことがうかがえます。

今後、さらなる高齢化が進んでいくなか、生きがいづくりとしての文化活動の役割はますます重要になります。そういった観点も踏まえ、文化芸術に興味があっても、日頃接する機会が少ない市民、あるいは文化施設などに足を運ばない市民に対しても、市内各所での鑑賞機会や学び・交流の場づくりなどきめ細かい環境整備を進め、参加・参画などのさまざまな機会を提供し、「観る文化」「創る文化」の楽しさをより多くの市民に知ってもらう取り組みが必要です。

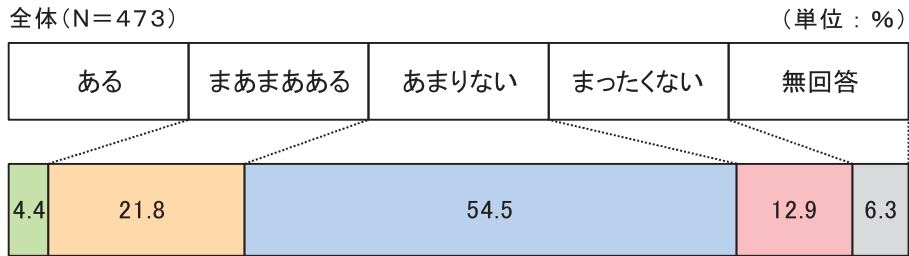
●平成26年嬉野市総合計画後期基本計画「まちの現状についての満足度」より

※満足、不満それぞれの回答の割合を指標化したもの（プラスの値が大きい方が、市民全体の満足度が高い）



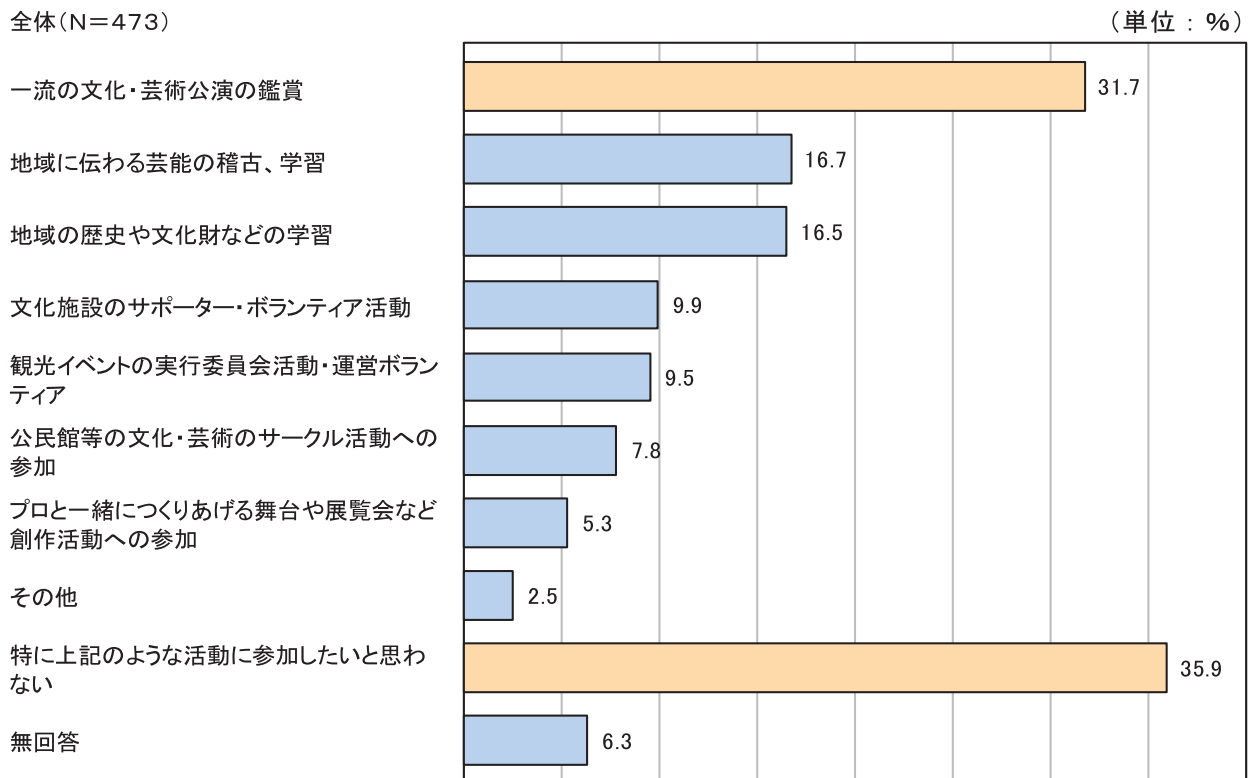
●一般市民アンケートより

「市内において文化・芸術活動などを学んだり、参加したりする機会がどの程度あるか」



●一般市民アンケートより

「今後参加したいと思う文化・芸術活動」



課題5 嬉野市の魅力である文化資源をまちづくりに十分に活かす ことができていない

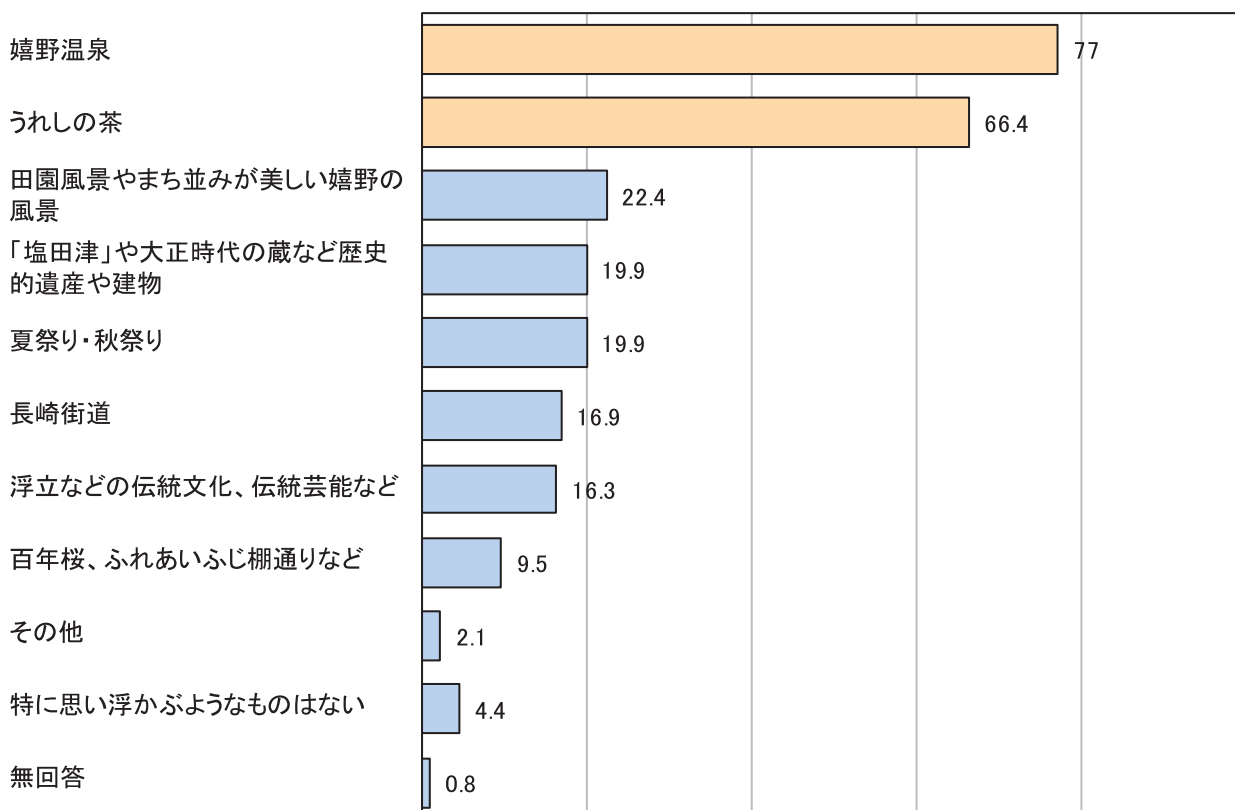
本市には、温泉などの豊かな自然、お茶や焼き物などの特産品のほか、歴史的文化財や伝統行事・芸能、町並みのほか、多くの文化資源に恵まれています。しかしながら、温泉やお茶は本市のイメージ・シンボルとして定着しているものの、そのほか多くの文化財をはじめとした地域資源については、市民の間でも認知率が高くないのが現状です。

市民アンケートでも、本市の文化・芸術分野の活動を活発にするために必要だということとして、「四季折々の観光イベントを充実させる」という意見が最も多くなっており、県内有数の観光地である本市ならではの取り組みが必要です。豊富な文化資源を市民自らが再確認し、観光・産業などの分野と連携し、対外的に広く発信するなど、本市の新たな魅力を創造し、観光のまちづくりに活かしていくことが求められます。

●一般市民アンケートより 「嬉野市のイメージ・シンボル」

全体(N=473)

(単位：%)

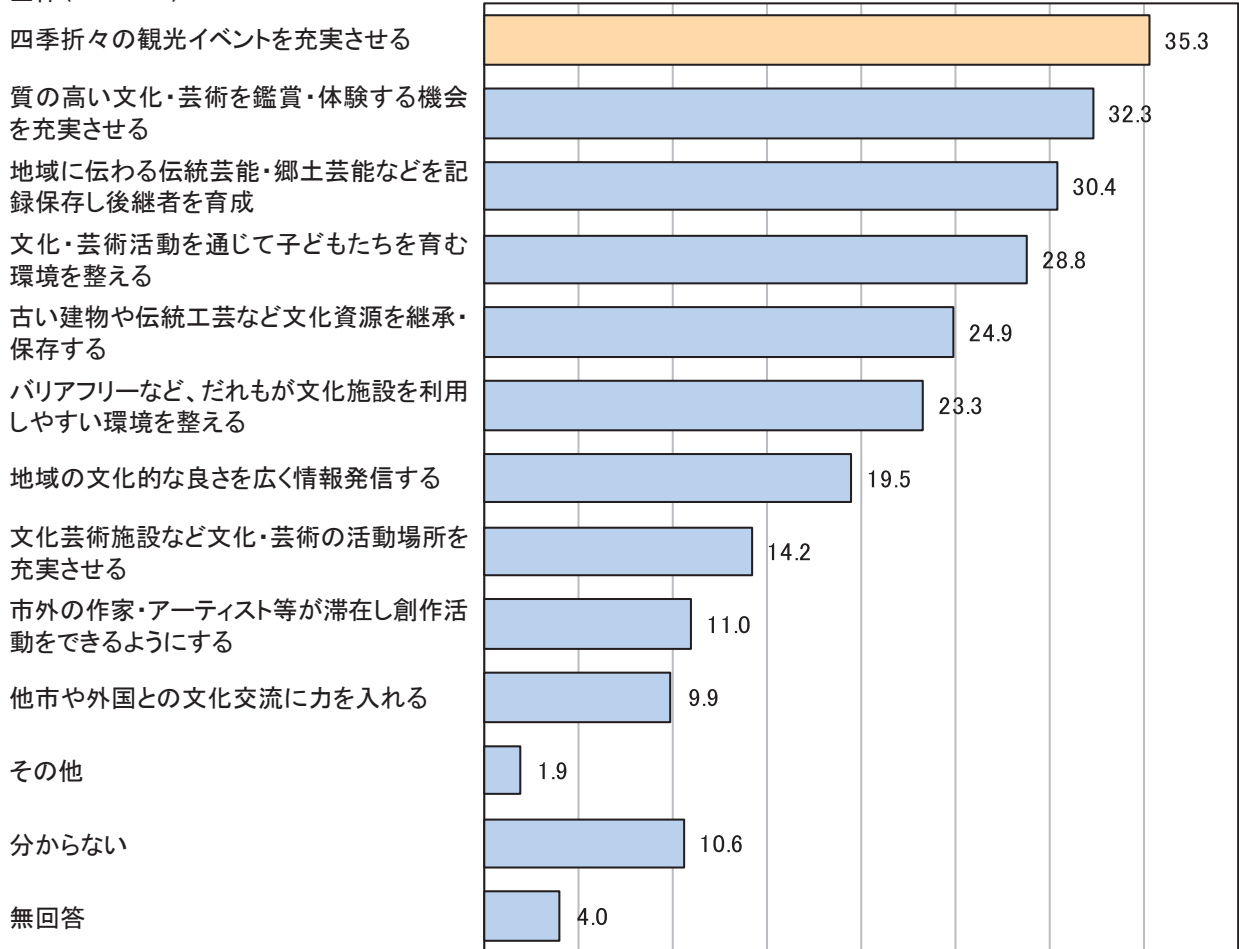


●一般市民アンケートより

「嬉野市の文化・芸術分野の活動を活発にするために必要だと思うこと」

全体(N=473)

(単位：%)



課題6 まちの一体感を醸成する文化的な取り組みが期待される

嬉野町と塩田町はともに先人たちが育んできた豊かな文化資源・歴史遺産を大切にでききており、次世代に伝えるための取り組みに力を入れています。市民アンケートでも、「嬉野市が文化的な環境だと思うか」という問いに対し、「どちらかといえば文化的だと思う」を加えると56.0%の人が「文化的だと思う」と答えています。

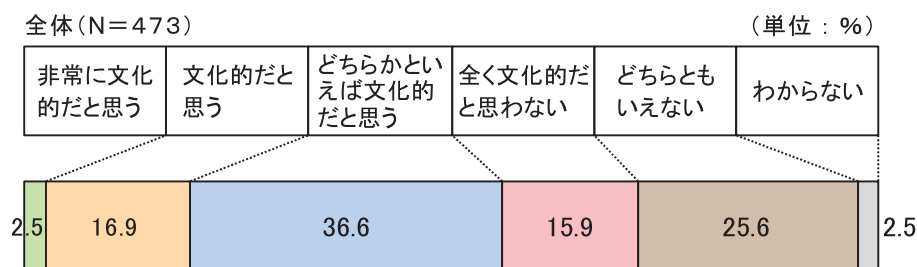
一方、文化団体や地域コミュニティ同士の交流は十分ではなく、まち全体として取り組む文化イベントが少ないのが現状です。市内でも嬉野町と塩田町ではお互いの活動をよく知らないといった声があります。

市民アンケートでは「嬉野市が催し物を行うことで、どのようなまちになってほしいと思うか」という問いに対して、「身近な催し物への参加を通じて、子どもや高齢者、住民同士や訪れる人との心が通い合う関係の住みやすいまち」という意見が半数以上となり、文化的な取り組みを通じて、地域や世代を超えた交流が生まれることが期待されています。

まちの一体感の醸成は本市のまちづくりにおける大きなテーマです。人と人、地域と地域をつなぐ文化の力を最大限に活かし、まちづくりに波及させていくことが求められます。

●一般市民アンケートより

「嬉野市が文化的な環境だと思うか」



「嬉野市が催し物を行うことで、どのようなまちになってほしいと思うか」

